



NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

2014.04 — 06

NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

Information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃(開場は13:30)

上映作品は予告なく変更場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 500円(当日券のみ)

*本券でコレクション展もご覧いただけます。

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。
当日13:30より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。
会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 | 富田美香(立命館大学映像学部教授)
川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

Future Beauty

日本ファッション：不連続の連続

会期 | 2014年3月21日[金・祝]—5月11日[日]

チェコの映画ポスター

会期 | 2014年3月21日[金・祝]—5月11日[日]

上村松篁展

会期 | 2014年5月27日[火]—7月6日[日]



嵐を呼ぶ十八人

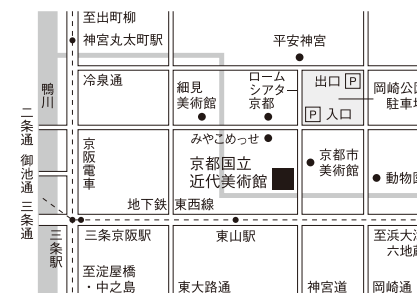
2014.04 April
06 June

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL 075 761 4111

www.momak.go.jp



- ・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・市バス他系統「東山二条 岡崎公園口」または [岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前]下車徒歩約5分
- ・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

◀ 003 ▶ 美術館で映画を観る3

美術館で映画を観ることはあまりありふれた体験ではないかもしれません。フィルムを収集しつつ、恒常的に上映を続けている国内の美術館は極めて限られているからです。美術館の活動の中心が展覧会にあつて、しかも常設展より企画展(特別展)に対する一般の関心が高い(広報宣伝も企画展に注力されることが通常)ことも、そうした印象を強めている一因でしょう。実施されたとしても、映画上映は単なる関連イベントの域を出ず、美術館活動の傍流に位置しているように見えます。

しかし、歴史的に見れば、映画は一主要な領域でないことが奇妙に思えるほど一近代美術館と深い関わりをもっています。無機質で、作品に干渉しない、白い壁面に囲まれた展示空間(いわゆるホワイト・キューブ)、美術史的関心に基づく展示構成など、近代美術館の制度を構築したニューヨーク近代美術館(MoMA)が1929年の設立から間もない35年にフィルム・ライブラリーを設け、38年に国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の創立メンバーになったことはよく知

られています。MoMAのフィルム・ライブラリー創設を巡る文化史的背景を詳細に論じたハイディー・ワッソンは、こうした制度化が映画と密接に結びついていたことを明らかにしています。フランクリン・ルーズベルトは、大統領在任中に、MoMAを「生きている」美術館と呼びました。ワッソンは、この「生きている」という評価が、さまざまな地域で、公衆の芸術教育に供される美術館資料の「可動性(mobility)」に基づいていると論じています¹⁾。フィルム・ライブラリーは、学校、図書館、映画館、デパート(!)などに、所蔵しているフィルムを貸し出したり、巡回上映を行ったりして、MoMAの教育的使命を果たしつつ、過去の映画を収集することで、一過性の消費に対して、それらを歴史的パースペクティブのもとに整備し、(再)上映することに従事してきました。この活動は、MoMAの美術史的関心と、その志向を同じくしています。

また、ワッソンは、MoMA運営の背景にあった芸術教育の思潮の中に、美術館が観客を開拓し、確保するには、パーマネント・コレクションの展示よりも、期間限定的な展示(企画展)を重視すべきという考えがあり、そのような展示活動が、作品を次々と入れ替えていく映画館のプログラムに擬せられていたことを報告しています²⁾。要するに、映画は近代美術館の活動の対象であつただけでなく、その活動をモデル化する規範としての役割も果たしていたわけです。

これに関連して、ホワイト・キューブの機能を考え合わせてみるのもよいかもしれません。なぜなら、ホワイト・キューブは、「作品」が展示の場から自立的な同一性を有していることに基づいており、この同一性があるがゆえに、「作品」は可動的であることができるからです。つまり、MoMAで展示されたピカソの《アヴィニヨンの娘たち》は、ここ京都国立近代美術館で展示されても、同一の作品であるということです。これは、

川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)

¹⁾ Wasson, Haidee, *Museum Movies: The Museum of Modern Art and the Birth of Art Cinema*, University of California Press, 2005, pp.68-69.
²⁾ *Ibid.*, p.84